

雪印のミニ野菜シリーズ

ミニダイコン『<sup>こぶと</sup>小太りくん (RA243)』、  
ミニキャベツ『スイートミニ』のご紹介

雪印種苗(株)  
畑作園芸本部 営業課



▲ 『小太りくん』の草姿(手前)、立性でコンパクト



▲ 『小太りくん』の草姿、板葉に近く特徴的な葉

1.はじめに

消費者のニーズの多様化を反映し、また品種の用途別開発の中で各野菜のミニ化が進んでいます。特にダイコン、キャベツ等の重量野菜では流通上でのカット販売も常態化し、小家族でも食べられるサイズの要望が強まっています。

弊社ではサイズのミニ化だけではなく、さらに食べておいしい品質の向上と、生産者向けには新たな付加価値のご提案を、また消費者向けには新たな調理方法のご紹介も含め、ミニ野菜の品種開発に取り組んでいます。

今回、弊社取り扱い品種の中で、来春より発売予定のミニダイコン『小太りくん (RA243)』および各地でご好評いただいているミニキャベツ『スイートミニ』についてご紹介いたします。

2.長野県でのミニダイコン『小太りくん』の栽培事例

長野県JA信州諏訪ダイコン部会の今井忠さんは、昨年から『小太りくん』の栽培に取り組み販売面で好評であったことから、今年さらに播種期を拡大し5月9日から6月末まで作付けされました。通常出荷の青首ダイコンとほ

ぼ同じ肥培管理でおこなっていますが、葉の傷みもほとんどなく、葉付きミニダイコンとして品質の良いものを継続出荷することができました。

『小太りくん』の品種特性上、暑さに強くほとんど病気にかかることがなく、歩留まりが高く、加えて早くから尻がつまり、よく揃うことから比較的幅広く出荷することができました。ま



▲ 『小太りくん』の収穫物、尻つまりが良く、ひげ根少なく肌がきれい ▲



▲ 『スイートミニ』の草姿、外葉コンパクトでほぼボール型に結球



▲ 『スイートミニ』の収穫適期玉、1玉500～600gが目安

た扱いやすい大きさとして、1箱8～10本前後詰め（葉付きで1.2kg程度/本）での出荷が中心となりました。販売先は青首ダイコンと同じ中京方面中心に出荷されましたが、一般的にダイコンの相場が上がらなかった中で、比較的安定した価格で推移しました。

このようなミニダイコンの需要はまだ限られていることから、大量に出荷すると価格の暴落を招く恐れがあり、適度な量を継続的に出荷することがたいへん重要となります。その点「小太りくん」は耐暑性が強く、当地での栽培では5～6月まで幅広く播種することができ、出荷期間も他の品種より長くすることが可能です。また肝心の食味ですが、どうしても夏場のダイコンは水っぽくなってしまいう中、『小太りくん』は若干の辛味はありますが、ダイコン本来の味を失うことなくおいしいダイ

コンに仕上がりに、今後も継続出荷をおこなっていきたいとのことでした。

### 3.北海道でのミニキャベツ『スイートミニ』栽培の取り組み

北海道苫小牧市に本社があるコ・ジャスナでは、8月下旬から9月下旬のほぼ1ヶ月間の出荷でミニキャベツの契約栽培をおこなっています。『スイートミニ』は長沼町の生産者2名で約1haを栽培しており、1玉500～600g前後で収穫、出荷されています。

コ・ジャスナは、主に関西圏の生協向けの個別配送商品としてミニキャベツを紹介していますが、売れ行きは予想以上で、今年は早魃での生育の遅れもあって品不足が続いてしまいました。18～20玉/10kg箱が売れ筋の規格となっており、1玉800gを超える

とミニキャベツとしては売れなくなるということです。

生産者からは、8,000株/10a以上の密植も可能なことから、外葉を小さめに作り、じっくり育てることが重要で、そのための追肥の調整が栽培上のポイントになるとのお話でした。『スイートミニ』は揃いがよく、くずが少ないことから栽培しやすい品種として評価していただいております。



▲ 『スイートミニ』の荷姿（18～20玉/10kg箱）



▲ 出荷先は主に関西の生協宅配向け